

2 0 2 4 (令和 6) 年度

事業報告

社会福祉法人おおつ福祉会

おおつ福社会 わたしたちのめざすもの

「社会福祉法人おおつ福社会」は、障害のある人や家族の願いをもとに、地域の多くの団体や個人が集まり、障害のある人の願いをかなえるために、**1990**年に設立されました。

わたしたちは

障害の種別や軽重に関わりなく、一人ひとりが大切にされる取り組みを進めます。

わたしたちは

障害のある人やその家族など多くの関係する人たちが参加する共同の事業として運営を進めます。

わたしたちは

障害のある人やお年寄りが、地域のなかで安心して働き暮らせるように取り組みを進めます。

わたしたちは

市民の理解と協力をもとに、福祉の充実をめざして、運動を進めます。

わたしたちは

全国のすぐれた経験に学び、研究や研修活動を積極的に進めていきます。

1 情勢報告

今年度は、おおつ福祉会の第4期中期計画にもとづいて、伊香立の杜内に個別の配慮が必要な方のための新たなグループホームとして、きのこタケノコを大津市の市単補助や国庫補助を受けて建設した。

2024年度の報酬改定では、生活介護では報酬が上がってはいるが、本体報酬が減額され、各種加算の比重が大きくなった。また、日払いから時間払いへの移行があり、事務量がさらに増えた。報酬改定の水準も不十分であり、引き続き日払い等制度の問題について行政及び国へ伝えていく必要がある。

2 法人の重点課題の概要

(1) 法人・事業所における感染症、災害対策として、施設長会議と同時開催で対策委員会を立ち上げ、情報の共有に努めた。

(2) 人材育成は後述の研究研修部を中心に取り組みを進めた。

(3) 学生実習の受け入れは5事業所で33人となり、大学、専門学校と連携をとった。

(4) 居宅会議や生活介護会議を中心に事業再編に関する検討を行った。ホームヘルプセンターの事務所を伊香立の杜内へ移転し、法人事業の効率化を進めた。新規利用者の受け止めは、日中事業所5人、共同生活援助1人、短期入所6人となった。

(5) 働き方の見直しでは、フルタイムで働く職員の総時間外労働は、年間一人当たり平均34時間で前の年より3時間減少した。ノー残業デーなどを導入するなど、時間外労働をより少なくする努力が求められる。同じく、総有給休暇取得日数は2674日で年間一人当たり15日となり、前の年より2日ほど減少した。より計画的な年給取得に向けた取り組みが求められる。

(6) 伊香立の杜で労働安全衛生委員会を定例開催し、職場環境の相互点検に努めるとともに、産業医から助言を受けてストレスチェックを実施した。

(7) 「きのこタケノコ」の整備事業を進め、予定通り、2025年4月開所となった。グループホームの再編では、南志賀ひまわりホームを閉所し、合理化を進めた。また日中事業所から職員実習を受け入れ、体制強化に努めた。

(8) 利用者・家族の高齢化が急速に進んでいる。引き続き、病気等に伴う支援内容の見直し、事業所間の異動とともに、高齢者施設や医療機関への移行など相談機関とも連携して対応を進めた。

(9) 芸術活動については、後述の美術会議を中心に計画的に取り組んだ。

(10) 障害者権利条約の具体化を進める運動の一環で、きょうされん国会請願署名・募金等に取り組んだ。

3 組織的な課題等

(1) 虐待防止に向けて、虐待防止委員会の毎月開催とともに、身体拘束適正化委員会を随時開催して、組織的な対応・解決のための協議検討を行った。法人内の人権意識の向上につなげる取り組みに位置づけた。

(2) ハラスメント対策として、対策指針と相談窓口を設置し、対策委員会を開催して、事案の対応を行った。

(3) 自然災害、感染症に関するBCP(業務継続計画)に基づいて、対策委員会の開催や事業所での訓練等を実施した。

(4) 引き続き施設長会議に理事長が出席し、業務を執行した。

(5) 理事会へ定期的に施設長会議の内容を報告・共有した。評議員会へは理事会の内容を報告した。

(6) 苦情委員会において、苦情(2023年度分)として取り上げられたのは34件で(前年度から1件減)、その内、第三者委員に申し立てられたものはなかった。

(7) コロナ禍以降、未開催だった法人イベント「秋フェスタ」を成功裏に終えた。

採用活動

人手不足に対応するために取り組みを進めてきた。その結果、問い合わせ 33 人、正規採用試験（内部試験含む）申込 8 人、採用 25 人（内常勤 7 人〈正規 4 人、契約 1 人、厨房 2 人〉）であった。応募経路は、職員紹介 12 人、介護人材センター・ハローワーク 9 人、横断幕 3 人、求人チラシ 3 人、元職員 4 人、後援会 1 人、HP 1 人であった。退職は、19 人（内常勤 8 人〈正規 3 人、契約 2 人、厨房 3 人〉）であった。

（1）就職フェアは、福祉以外にも含めたフェアでは参加者の目的がはっきりせず、その後のつながりにはなにくかった。介護人材センターや大学関係等の福祉に関心がある層を対象にしたフェアは参加者も積極的で次の見学会等につながりやすかった。また、就職フェア後の連絡や見学会等を行い、採用に至る働きかけを行ってきた。

（2）求人チラシポスティングや横断幕のように不特定多数を対象にしたものは、厨房希望者からの問い合わせが多かった。厨房の仕事はイメージがつきやすかったと思われる。一方で、支援員や運転手の応募は介護人材センター・ハローワークを通じたものだった。

（3）支援員の応募は、就職フェアで応募した人以外は、ほとんどが職員紹介であった。知人であることで、情報共有がしやすく、採用につながった。支援員募集としてはもっとも成果のある採用活動であった。

4 他の組織との連携

（1）きょうされん滋賀支部へ事務局長、常任理事を派遣し、大津ブロックとして副ブロック長を担った。大津市にブロック独自の要望書を提出した。きょうされん第 47 回全国大会 in しがに職員を要員派遣し、大会運営に寄与した。

（2）大津市福祉施設協議会の事務局、滋賀セルフ協の副会長等の役割を担い、活動を支えた。

（3）おおつ福祉会後援会との連携では、事務局を担い、運営委員に職員を派遣した。後援会から法人に 1,000 千円の寄付をいただいた。

（4）家族会連合会と合同で大津市との懇談会を実施した。家族会連合会から法人に 1,000 千円の寄付をいただいた。

5 財政運営

（1）資金収支計算書の当期資金収支差額合計が+ 40,274 千円となった。

（2）建設積立金（おおぎの里、伊香立の杜ケアホーム）とマイクロバス積立金（「伊香立の杜」木輝）を積立てた。（積立額 8,220 千円）

（3）法人・事業所への寄付金として、菜ノ花の会から 200 万円など団体・個人より約 750 万円をいただいた。

6 事業量

各事業の事業量は次のとおり

事業種別	事業所名 （ ） 内定員	事業量		
		2022 年度実績	2023 年度実績	2024 年度実績
	①唐崎やよい作業所〈生活介護 30 人〉	6,992 人/年	6,354 人/年	6,211 人/年
	②社会就労センターこだま〈就労継続 B40 人〉	6,203 人/年	5,708 人/年	5,708 人/年

障害福祉サービス事業 (日中活動)	③社会就労センターあおぞら (生活介護 30 人)	6,331 人/年	6,034 人/年	5,998 人/年
	④多機能型事業所ふうね (就労継続 B30 人) (就労移行 6 人)	5,445 人/年 567 人/年	5,005 人/年 688 人/年	5,225 人/年 161 人/年
	⑤おおぎの里 (生活介護 15 人) (就労継続 B 15 人)	2,495 人/年 2,067 人/年	2,829 人/年 2,135 人/年	3,170 人/年 1,824 人/年
	⑥「伊香立の杜」木輝 (生活介護 40 人)	11,743 人/年	11,630 人/年	11,730 人/年
グループホーム・ケアホーム	⑦南志賀ひまわりホーム (共同生活援助 24 人)	11,585 人/年	8,756 人/年	7,131 人/年
	⑧伊香立の杜ケアホーム (共同生活援助 38 人)	12,356 人/年	12,396 人/年	13,040 人/年
ショートステイ	⑨ショートスティむくの木 (短期入所 10 人)	1,763 人/年	1,632 人/年	1,382 人/年
	⑩伊香立の杜ショートスティ (短期入所 12 人)	2,780 人/年	2,660 人/年	1,477 人/年
ホームヘルプ等	⑪おおつ福祉会ホームヘルプセンター	7,858 時間	7,856 時間	4,918 時間
	⑫日中一時支援事業	427 回	212 回	—
相談支援事業	⑬相談支援事業所ひびき	5,554 件	5,126 件	4,495 件

7 理事会・評議員会の開催と出席状況、監査の状況

(1) 理事会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/理事総数	出席/監事総数
2024年5月29日 (水)	伊香立の杜木輝&オンライン	6/6	2/2
2024年8月21日 (水)	伊香立の杜木輝&オンライン	6/6	2/2
2024年10月24日 (木)	書面	6/6	2/2
2024年12月18日 (水)	伊香立の杜木輝&オンライン	6/6	0/1
2025年3月12日 (水)	伊香立の杜木輝&オンライン	6/6	2/2

(2) 評議員会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/評議員総数
2024年6月16日 (日)	社会就労センターこだま	6/8
2025年1月18日 (土)	唐崎やよい作業所	5/8

(3) 監事による監査の実施状況

実施年月日	場所	担当した監事
2024年5月17日 (金)	「伊香立の杜」木輝	馬場監事・平井監事

8 研究・研修部

昨年度、人員確保が難しい現状から研究・研修部を主任者会議で担っていくこととなり、本年度は2年目であった。昨年度の研修についての意見を取り入れながら主任者自身が研修を運営することで

主体的に法人実態、今後の展望を考える機会にもつながるように取り組んだ。

また、研修は各事業所を会場にして年3回の研修を企画した。本年度はきょうされん全国大会が滋賀県で行われることもあり、発達保障を軸にした法人の実践について理解を深めていくことを目的とした。参加会場は法人全体で振り分けたり、希望を聞いたりして決定して、経験年数を意識したグループワークも設定し、日ごろ会う機会の少ない職員同士の交流・意見交換の場という意味もあり、他事業所の職員と実践について語り合う機会となった。

主任者が法人内研修に携わることで方向性や具体的な進め方を共有し、研修企画に携わる人材が広がっている点はよかったと考える（人材育成）。

今後法人の研究・研修の方向性、主任者の業務整理をどうするかなど課題もある。来年度体制とも関わって検討し、研究・研修部の体制を整えていく必要があると考える。

（1）新任・中堅研修

日程 2024年7月6日（土）8時45～17時45

会場 各日中事業所 zoom 使用

午前

①講演 利用者の話

②講演 後見人の方の話

午後

①学習会（接遇研修・後見人制度について）

②グループワーク（午前の講演内容・各事業所の実践に引き寄せて・発達保障）

（2）人権研修

日時 2023年11月19日（土）8時45分～17時15分

会場：各日中事業所 zoom 使用

午前

①「安全運転講習」 【講師：岡武和暁氏 OSS】

②中井やまゆり園の取り組み

③強度行動障害の方の暮らし

午後

①虐待研修（大津市自立支援協議会資料を活用）

②グループワーク

（3）中堅研修 / 新任フォローアップ研修

12月～2月 中止 感染症流行により中止。

（4）研究集会

日時：2025年2月22日（土）8時45分～17時15分

会場：各事業所 zoom 使用

午前：実践報告会

午後：グループワーク

各事業所で年間を通してレポート作成に取り組んだ。また、レポート・資料集を作成した。実践報告は事前録画したものを使用し、実践報告後は分科会ごとに2本のレポートを深め法人実践で大切にしていることを確認した。

9 会議報告

（1）広報会議

年間を通して全9回の会議を開催した。Reachについては秋フェスタ（第35回こだままつり）、ス

ポーツ交流会、各事業所のまつり、この人にクローズアップ等の特集で Reach64 号を発行したが、年 1 回の発行に留まった。インスタグラムについては法人の情報発信のツールとして活用できたものの、定期投稿から不定期投稿へと切り替えたことで、投稿数が減少した。また、法人用パンフレット、パート募集用チラシ、法人シンボルマークの実施要項等の作成を進めているため、次年度も引き続き進めていきたい。

(2) 美術会議

- ・合同作品展の開催に向けた議論を中心に、全 8 回の会議を開催した。
- ・11 月 21 日～11 月 24 日にかけて、法人内の 6 事業所による合同作品展「いねむりサンタのプレゼント展」を大津市生涯学習センターにて開催した。今年度は、年齢を問わずに気軽に見学してもらえるような工夫を考えた。6 事業所が各パーツを製作し、大きなサンタを完成させるという試みが足をとめていただくきっかけとなり、約 170 人の方に来場者があった。
- ・作品展応募結果
ぴかつ t o アート 審査員特別賞 1 人、入選 5 人
滋賀県勤労者美術展 入選 2 人

(3) 居宅会議

- ・開催状況
2024 年度は 6 回開催
主に、ホームヘルプセンターの伊香立への移転と法人内部利用の検討、グループホームのバックアップ体制の整備、むくの木の事業継続に関しての議論を行った。
- ・ヘルプ
伊香立木輝内拠点への移行と定着、運営状況を評価しながら、唐崎発着の継続の有無、内部利用者支援の充実と日中時間帯の収益化、今後の方向性を検討した。既存利用者のサービス保障のため、唐崎発着は一定の必要性を確認し、機能を残すことを確認した。日中時間帯の支援、内部利用の合理化などは引き続き次年度への検討課題とした。
- ・坂本ホーム
前年度より継続議題となっていたバックアップ体制の実現をめざして議論を行った。バックアップ体制の整備に関しては、他事業所からの職員の現場実習を計画、2025 年 1 月～3 月にかけて実施、緊急時の体制の整備を進めることができた。バックアップ体制の定着、安定化をめざし、次年度も引き続き実習を行えるようにすることを検討課題とした。また、運営の方向性として、これまでのようなキーパー主体の支援体制から、職員主体の支援体制をめざす方向性を確認した。
- ・むくの木
むくの木の現状（建物の老朽化、人員体制、利用ニーズの減少）を踏まえ、事業継続について議論を行った。居宅会議として、事業休止の妥当性を確認し、施設長会議にて法人全体の検討議題として報告した。

10 各事業所の報告

(1) 唐崎やよい作業所

1. 利用実績（定員 30 人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	22	21	23	19	20	23	21	21	20	19	21	252
契約者数（人）	27	27	27	27	27	26	26	26	26	26	26	26	26

利用者延出勤数（人）	565	544	520	586	454	486	560	517	515	487	463	514	6211
対定員利用率（％）	85.7	82.7	82.7	85.0	79.7	81.0	81.2	82	82	81.3	81.3	81.7	82.2

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 8月にグループホーム入居のため、法人内事業所に1人移行し、契約者26人となった。

(2) 利用者の日中活動を充実させるために仕事（手織り・陶芸・リサイクル）、文化的活動（音楽・造形・絵画等）、身体を動かす活動（散歩・体操等・山歩き）、週1回のレクリエーション及び、誕生日会、季節行事を行った。旅行は近畿・北陸方面へ四班に分かれ、日帰り旅行を実施した。

(3) 車両リースは今年度実施しなかった。

(4) 特定建物定期調査にて指摘のあった屋根の部分改修を行った。

(5) 利用者の発達検査とケース検討会を4ケース実施した。また外部研修にも参加した。

(6) やよい通信地域版を6月と2月に配布した。法人合同作品展へ出展し、ぴかっとアート展に2人入選、滋賀県勤労者美術展に1人入選した。また3月に陶芸・手織り作品展示と販売会を開催した。

3. 苦情・事故等

苦情件3件、事故0件

(2) 社会就労センターこだま

1. 利用実績（定員40人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所数（日）	21	22	23	21	21	21	22	21	22	20	20	23	257
契約者数（人）	34	34	34	32	30	29	29	28	29	29	29	29	366
利用者延出勤数（人）	489	515	530	494	472	473	501	463	462	422	415	472	5708
対定員利用率（％）	58.21	58.52	57.61	58.81	56.19	56.31	56.93	55.12	52.50	52.75	51.88	51.30	55.53

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 多機能型事業所として2025年4月1日からの移行に向けて、実態に合わせたかたちで就労継続支援B型（定員15人）と生活介護（定員15人）で申請を行った。

(2) これまで通りの作業は継続しつつ、新たな作業としてシェアサイクル事業とブックオフの古着作業を取り入れることができた。来年度の多機能型事業所に向けて作業の分けを行った。

(3) 北大津養護学校、滋賀大附属特別支援学校、草津養護学校の3校に直接訪問し、アナウンスを行った。また、同時に大津市自立支援協議会にもアナウンスを行った。

(4) 事業所内の電灯を順次LEDに変更していくことができた。その他の設備修理等も必要に応じて進めた。

(5) 今年度は10月に「こだまわっしょいまつり～秋やから商いやねん～」を開催した。

(6) 利用者2人の発達検査及びケースカンファレンスを実施することができた。外部研修は体制のこともあり、積極的に参加することはできなかった。

3. 苦情・事故等

苦情5件・事故2件（内車両事故2件）

(3) 社会就労センターあおぞら

1. 利用実績（定員30人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---	----

開所日数（日）	22	23	22	20	18	21	23	21	21	20	18	20	249
契約者数（人）	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
利用者延出勤数（人）	534	541	548	476	428	509	522	517	527	496	437	463	5998
対定員利用率（％）	80.9	78.4	83.0	79.3	79.3	80.8	75.7	82.1	83.7	82.7	80.9	77.2	80.3

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 4月に利用者2人と契約し、契約者30人となった。
- (2) 職員体制を整えることができ、午前は作業的な取り組み（アルミ缶リサイクル・手織り・陶芸・ビーズ・畑など）、午後は療育的な取り組み（散歩・体操・サロンなど）という日課で、安定して活動を実施できた。
- (3) 土曜開所は計画的に実施できていたが、体制上の問題で1月に1回中止せざるを得なかった。
- (4) 発達検査は計画通り、年2回実施することができた。ケースカンファレンスでは、発達の視点から本人を捉え直し、それを具体的にどのように実践に活かすかという議論ができた。
- (5) 地域向け通信は発行できなかった。

3. 苦情・事故等

苦情0件、事故1件（内車両事故1件）

（4）多機能型事業所ふうね

1. 利用実績

・就労継続支援B型（定員30人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	22	21	23	18	20	22	22	20	19	18	20	245
契約者数（人）	25	26	26	26	26	26	26	26	26	24	24	24	25.4
利用者延出勤数（人）	468	471	451	495	381	421	485	439	441	388	371	414	5225
対定員利用率（％）	70.1	71.7	71.7	72.0	70.7	70.3	73.7	73.3	73.7	68.3	69.0	69.0	71.3

・就労移行支援（定員6人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	21	20	20	18	19	22	20	20	19	18	20	240
契約者数（人）	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1.6
利用者延出勤数（人）	28	24	22	21	11	23	10	5	5	5	5	5	161
対定員利用率（％）	23.3	20.0	18.3	16.7	11.7	21.7	8.3	5.0	5.0	5.0	3.3	3.3	11.7

2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 就労継続支援B型は、法人内事業所への移行2人（12月）、入所者1人（5月）があり、契約者数は24人となった。また、職員体制上の課題があり平日の活動を充実させるために8月から土曜開所をやめた。就労移行支援は、期間満了の2人をそれぞれ次の事業所（就労継続支援B型）に引き継いだ。4月からの新規利用者がいないため、休止とする。
- (2) 社会的な知識や暮らしについては、利用者自治会で話し合いの時間を使う等、適宜機会を設けて利用者の理解を深めることができた。
- (3) 生活や仕事に関する相談や将来の生活についての相談については、家族も含め面談を実施した。年齢を重ねると将来の生活への思いが変わってきており、家族と利用者の思いを確認していった。
- (4) 就職も含めた進路について、本人の希望を丁寧に確認し、それに合った情報提供を行った。就職を希望する人はいたが、まだ訓練が必要な段階であったため個々に応じた活動や訓練について共有、

実施をした。

(5) 相談支援事業所からの紹介で利用には結びつかなかったが見学があった。見学理由の中に通いやすさがあり、地域で社会資源として認識が広がっていると思われる。

(6) 高齢利用者の状況に応じた活動を実施することはできなかったが、対象利用者から作業以外の活動を希望する声が上がっている。また、B型と移行の枠を超え一緒に取り組む活動を増やした。

(7) ケースについては心理職と連携し、必要に応じて利用者の面談を実施して検討した。

(8) 社会福祉士実習を引き続き受け入れた。今年度は3カ所から実習生を受け入れた。

3. 苦情・事故等

苦情3件、事故1件（内車両事故1件）

(5) 障害者福祉サービス事業所おおぎの里

1. 利用実績

・生活介護（定員15人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	22	22	23	20	20	23	21	20	19	18	20	250
契約者数（人）	17	17	17	17	17	18	18	18	19	19	19	19	17.9
利用者延出勤数（人）	265	266	240	227	227	267	312	273	266	272	259	296	3,170
対定員利用率（％）	80.7	80.7	73.3	66.0	76.0	89.3	90.7	86.7	88.7	96.0	96.0	98.7	87.7

・就労継続支援B型（定員15人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	22	22	23	20	20	23	21	20	19	18	20	250
契約者数（人）	11	11	11	12	12	12	11	11	10	11	11	11	11.2
利用者延出勤数（人）	185	174	162	182	154	139	160	137	138	125	126	142	1,824
対定員利用率（％）	56.7	53.3	49.3	53.3	51.3	46.7	46.7	44.0	46.0	44.0	46.7	47.3	48.7

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 生活介護は、養護学校卒業生1人と契約した。また、法人内事業所から2人の受け入れを行った。B型は、見学希望者はあったが契約には至らなかった。

(2) 長期欠席者については、定期的な訪問を重ねながら、1人については他事業所へ移行できる見通しがたった。

(3) お花見や夏まつり、芋掘りなど季節の行事を楽しんだ。また、日帰り旅行は事業別でなく全体で実施することができた。

(4) 設備や備品など、必要に応じて修繕や買い換えを行った。

(5) 地域交流として、古紙回収や事業販売のカタログ配布を継続して取り組むことができた。

(6) 2ケースの発達検査及びケースカンファレンスを実施することができた。また、外部研修へ参加することができた。

3. 苦情・事故等

苦情2件、事故0件

(6) 「伊香立の杜」木輝

1. 利用実績（定員40人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	23	22	23	20	21	21	21	21	20	19	22	255
契約者数（人）	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	588
利用者延出勤数（人）	1008	1058	1013	1069	909	975	942	979	979	910	871	1017	11,730
対定員利用率（％）	114.8	115.0	1013	116.3	113.8	116.3	112.3	116.8	116.8	113.8	114.8	115.8	115.0

2. 重点時課題に対する取り組み

(1) 新たに養護学校卒業生を1人受け入れ、土曜開所については、年間予定通り開所することができた。また、他の事業所を併用利用していた利用者1人が、全面移行となり退所となった。

(2) 厨房設備の入れ替えについては、給湯器を買い替え予定だったが、他の修繕が重なったこともあり実施できなかった。さらに、特定建築物の定期検査で非常用照明装置の不点灯が判明し、LED照明への取り替えを行った。

(3) 守人の会と一緒にもちつき大会を実施し、地域の方にも呼びかけを行い、参加してもらうことができた。秋フェスタは法人全体で取り組み、課題はあるものの無事開催することができた。旅行については、体制上実施が難しく、班ごとに年度末企画としてイベントを行った。

(4) 虐待事案に対する改善計画書をもとに、全体研修や個別研修などを定期的に行った。外部研修は、色々な団体の企画に参加することで、研修を受ける機会を保障した。

3. 苦情・事故等

苦情2件、事故2件（内車両事故2件）

（7）伊香立の杜ケアホーム

1. 利用実績（定員38人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用実績（人）	1,065	1,084	1,073	1,125	1,096	1,079	1,092	1,083	1,118	1,057	1,028	1,140	13,040
平均利用人数（人）	35.5	35.0	35.8	36.3	35.4	36.0	35.2	36.1	36.1	34.1	36.7	36.8	35.7
利用率（％）	93.42	92.02	94.12	95.50	93.04	94.65	92.70	95.00	94.91	89.73	96.62	96.77	94.02

2. 重点課題に対する

(1) 2024年3月に利用者1人がケアホーム（くぬぎ）に入所、7月に利用者1人がケアホーム（やまもも）に入所した。入所枠はこれにて満床となった。

(2) 職員体制については、8月に常勤職員1人が退職した。パート職員を6人雇用した。

(3) 5月は豪華なお弁当やデザートを食べ楽しむ取り組みを行った。8月は鉄板焼きやかき氷、花火などの夏らしいイベントを行った。1月は、帰省ができない人を中心に寿司を提供した。それ以外にも各ホームでお菓子作りやプチ旅行に取り組んだ。

(4) ホームの共用部分のエアコンについて、設置から相当な年数が経っているため、今年度は、かりん、やまももの保全作業を行った。それ以外にも必要な修繕を各所を行った。カメラ設置について、家族会と話し合いを行った。家族会は概ね設置に前向きな方向なので、今後職員との話し合いを行っていく。

(5) 全体会議の時間に、虐待や身体拘束等の防止、また、感染予防についても学習会を実施した。キーパーについては、個別で職員による研修を行った。

3. 苦情・事故等

苦情 5 件、事故 1 件

(8) 伊香立の杜ショートステイ

1. 利用実績（定員 12 人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計平均
開所日数（日）	26	26	30	31	31	29	31	30	31	31	28	31	355
実利用者数（人）	57	56	60	58	51	60	63	60	62	58	61	62	59
延べ利用者数（人）	94	102	115	116	120	125	140	137	128	133	128	139	1,477
平均利用者数（人）	3.7	4.0	3.9	3.8	3.9	4.4	4.6	4.6	4.2	4.3	4.6	4.5	4.2
利用率（%）	30.8	33.3	32.5	31.7	32.5	36.7	38.3	38.3	35.0	35.8	38.3	37.5	35.0

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 4 月スタート時の職員体制が厳しく、閉所日を 3 日間（日、月、木）設けざるを得なかった。5 月、6 月に職員が増員（2 人）されたことで、利用者の受け入れを進めてきたが、利用希望者が思った以上に回復せず、平均利用率が 35%にとどまった。一方で、新規の契約者は 5 人（内 2 人が児童）となった。

(2) 修繕積立は実施できていない。年度途中で給湯器の故障が続き、買い替えをおこなったため、共有スペースのエアコンの室外機のメンテについては次年度に持ち越すことにした。

(3) ケース会議に関しては、前半期は職員体制が厳しく参加することができなかったが、後半期は、会議に参加し、他機関との情報共有を行うことができた。

(4) 緊急時利用は、前半期に要請はあったが、会議同様、職員体制が厳しく受け止めができなかった。後半期の要請はなかった。

(5) 避難訓練はホームとの合同で実施できた。

(6) イベント、行事食についても、ホームと合同で計画も含め、取り組むことができた。

(7) 地域通信の発行は見合わせ、ショート通信を年 3 回発行することができた。

3. 苦情・事故等

苦情 0 件、事故 0 件（うち車両事故 0 件）

(9) グループホーム

1. 利用実績（6 ホーム、定員 24 人） * 開所日数は全ホームの総数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	207	217	210	217	206	180	186	180	184	183	168	175
定員	29	29	29	29	24	24	24	24	24	24	24	24
利用日数（満床の場合）	870	899	870	899	744	720	744	720	744	744	672	744
利用実績	666	698	670	640	693	573	566	543	554	527	477	524
平均利用者数	22.2	22.4	22.3	20.6	22.4	19.1	18.3	18.1	17.9	17.0	17.0	16.9
利用率	76.5	77.1	77.0	71.2	93.2	79.6	76.1	75.4	74.4	70.8	71.0	70.4

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 利用者人数とホーム数を適正に保つために、南志賀ひまわりホームを閉所し、7 ホームから 6

ホームに縮小した。定員は 28 人から 24 人定員となり、2 人の利用者が他法人のホーム、1 人暮らしに移行し 20 人となり、さらに 2 人の利用者が身体や認知機能の低下のため高齢施設や他法人のホームへ移行し、現在利用者数は 18 人となった。見学の受け入れはしたが利用にはつながらず、6 ホーム満床にならなかった。

(2) 長年に渡って通帳をあずかっていた利用者の金銭管理を成年後見人など第三者にお願いしていく取り組みをすすめ、最後の利用者の後見人が決まったため完了した。引き続き規定に則り、適正に管理できた。(新たに 3 人が後見人制度の利用を開始した)

(3) 利用者の状態に応じてケース会議で本人にあった生活の場を検討し、介護保険サービスの利用を開始し、往診など活用できるように調整した。1 人は介護保険の事業所へ、1 人は日中支援型ホームへ移行した。

(4) ヘルプを活用し、定期通院、余暇活動の充実にむけて関係者と調整をした。サービスの不足により利用者全員の余暇活動(内容)の充実ににはならなかった。

(5) 職員会議、各キーパー会議で災害時・感染症 BCP の机上訓練や研修を年 2 回実施した。各ホーム年 2 回の避難訓練(地震、火災 1 回ずつ)、苗鹿荘の土砂災害防止法にもとづく避難訓練を 6 月に実施した。

(6) 今年度、エアコンの新調はなかった。老朽化した今宿ホームの換気扇の新調を行った。パソコンは Windows10 のサポートが来年度秋に終了するため新調が必要だが今年度はできなかった。

3. 苦情・事故等

苦情 1 件、事故 0 件

(10) ショートスティックの木

1. 利用実績(定員 10 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計平均
開所日数(日)	20	20	21	22	21	21	21	20	21	22	21	21	20.9
実利用者数(人)	62	63	63	61	62	58	54	56	54	49	53	53	57.3
延べ利用者数(人)	115	130	135	119	117	113	108	113	106	107	105	114	115.2
平均利用者数(人)	5.8	6.5	6.4	5.4	5.6	5.4	5.1	5.7	5.0	4.9	5.0	5.4	5.5
利用率(%)	57.5	65.0	64.3	54.1	55.7	53.8	51.4	56.5	50.5	48.6	50.0	54.3	55.1

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 1 日の受入利用者 6 人以内、夜勤 1 人の体制で運営を行った。しかし、それでも職員体制としては厳しい状況にあり、例年より閉所日を増やさざるを得なかった。月の平均開所日数 20.9 日。

(2) 目標としていた 1 日平均 5 人以上の利用については概ね達成できたが、定期的に利用していた利用者のグループホームへの入居などにともない、1 日あたりの平均利用率は徐々に下がってきている。また、今年度の新規契約者は 1 人であり、その背景には短期入所を経ずにグループホームに入居する利用者が増えているなどの状況がある。キャンセルは月平均 11.5 件、利用率は平均 55.1%であった。

(3) 開所日は緊急時の受け入れを行うことができた。しかし、閉所日があるため緊急の利用に至らないケースもあった。1 ヶ月の緊急利用平均 0.5 日。

(4) 大きなところでは、1 階トイレのタイル壁が剥がれ落ちていたため、その箇所については修繕を行った。タイルの浮き上がりが複数箇所あるが、資金面から全体の修繕は見合わせた。

(5) 今年度も自治会には継続加入したが、地域版の通信は自治会の意向で発行できなかった。

3. 苦情、事故

苦情 1 件、事故 0 件（うち車両事故 0 件）

（ 1 1 ） おおつ福祉社会ホームヘルプセンター

1. 利用実績

・ホームヘルプ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	集計
支援時間(h)	472	419	461	304	385	419	399	414	446	415	371	413	4918
身体介護(h)	53	45	58	48	42	54	36	41	53	41	41	47	559
行動援護(h)	124	90	138	20	96	106	108	116	116	100	82	82	1178
重度訪問介護(h)	10	9	10	9	10	9	10	9	10	10	7	7	110
同行援護(h)	0	1	2	0	0	2	0	2	1	1	0	0	9
車両移送単独型(h)	168	159	149	136	144	145	140	142	159	153	139	157	1791
移動支援個別(h)	117	115	104	91	93	103	105	104	107	110	102	120	1271
利用人数(人)	119	120	111	104	106	104	105	108	107	103	104	106	1297

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 2024 年 4 月より、拠点を「伊香立の杜」木輝内に移転することができた。

(2) 唐崎駐車場は 6 台分のスペースを確保し、車両 4 台を稼働させることで、大津市中南部地域の利用者の支援を継続して行うことができた。

(3) 伊香立ケアホーム、坂本ホームの依頼を受ける機会を増やし、内部利用を増やしていくことを心がけた。坂本ホーム利用者の余暇支援、通院に関しては概ね受けることができた。伊香立ケアホーム利用者に関しては、ホーム担当者と曜日や時間の調整を行ったが、ニーズの全てを受けとめることはできなかった。

(4) 14 件のケース会議に参加して、利用者の情報共有や、支援方法の確認、ニーズの把握などに努めた。

3. 苦情、事故など

苦情 3 件 事故 1 件（うち車両事故 1 件）

（ 1 2 ） 相談支援事業所ひびき

1. 利用実績

① 計画・モニタリング延件数

	合計	計画	モニタリング
合計	603	260	343

②支援実人数

	合計	身体	知的	精神	発達
障害者	255	8	238	6	3
障害児	50	4	43		3
合計	305	8	281	6	6

③相談延件数

	合計	身体	知的	精神	発達
障害者	4081	108	3840	102	31
障害児	414	73	328		28
合計	4495	181	4168	102	59

2. 重点課題に対する取り組み

(1) 契約している利用者の計画相談を滞りなく進めることができた。相談員が実質 4 人から 3 人となり、計画相談の新規受けとめは難しかったが、一般相談としてインテークや、セルフプランの手伝いを中心に委託相談としての役割を果たすことができた。大津市全体でも変わらず相談員不足は続いており、問い合わせや情報提供から他の相談支援事業所につなぐケースも多くあった。

(2) 自立支援協議会の各関係会議に参画し、情報交換や、相談技術の向上に努めることができた。支援者家族の関係調整や、生活相談を進めながら困難ケースにおいては事業所内外含めて適宜助言をもらいながら相談業務を進めることができた。

(3) モニタリング研修や高齢者プロジェクト、やまびこゼミ主催の研修など、各相談員が直面している課題に合わせてできる範囲で研修に参加することができた。

(4) できるだけ多くの加算の取得をめざして請求作業をはかった。年度途中に加算の過誤に気づき、直ちに返還した。利用者の生活状況を丁寧に把握し、関係機関と顔の見知った関係を深めるためにできるだけ事業所訪問をして関係の強化を進めることができた。

(5) 相談支援連絡会や運営会議において、地域課題を共有し、ニーズ把握に努めることができた。主に困難ケースを中心に、障害福祉課や基幹相談にも相談し、スーパーバイズを受けるとともに、他分野の専門機関や相談機関と連携でき、その課題を自立支援協議会において検討できた。

3. 苦情、事故等

苦情・事故 0 件